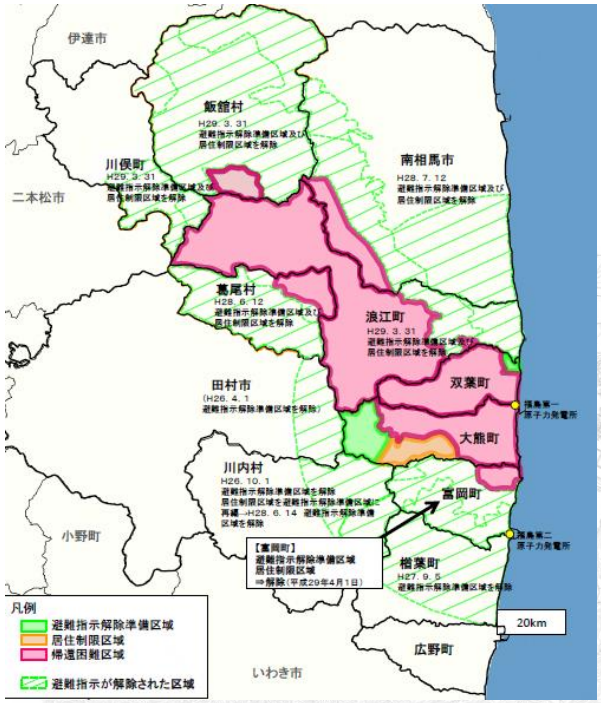
資料6

双葉町の復興まちづくりの取組状況と復興祈念公園の位置づけについて

平成30年11月

双　葉　町

1. 双葉町の避難指示区域

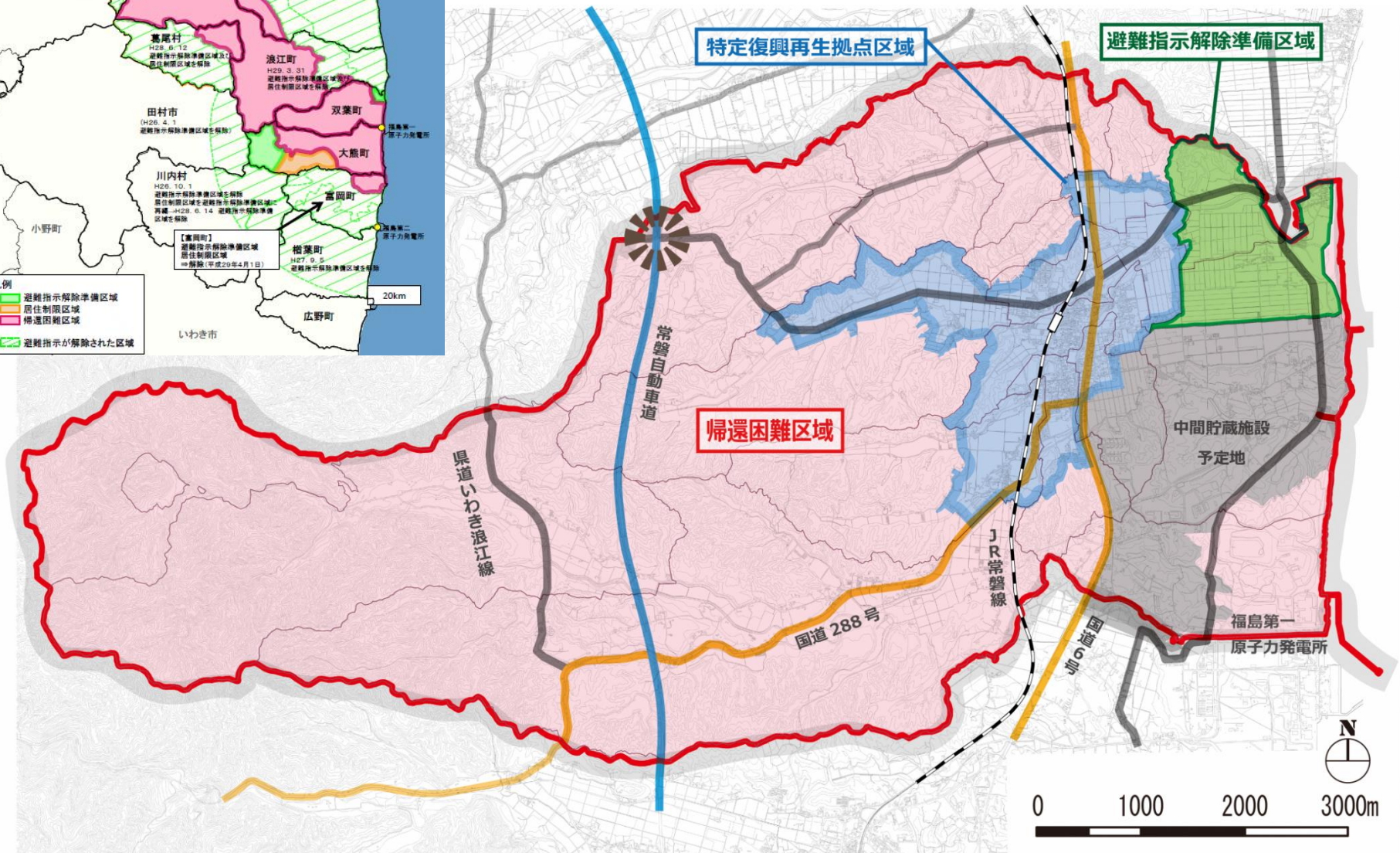


●各区域の世帯数・人口(平成23年3月31日現在)

帰還困難区域	2,524世帯 6,835人(約96%)
避難指示解除準備区域	87世帯 305人(約4%)

●避難の状況(平成30年11月1日現在)

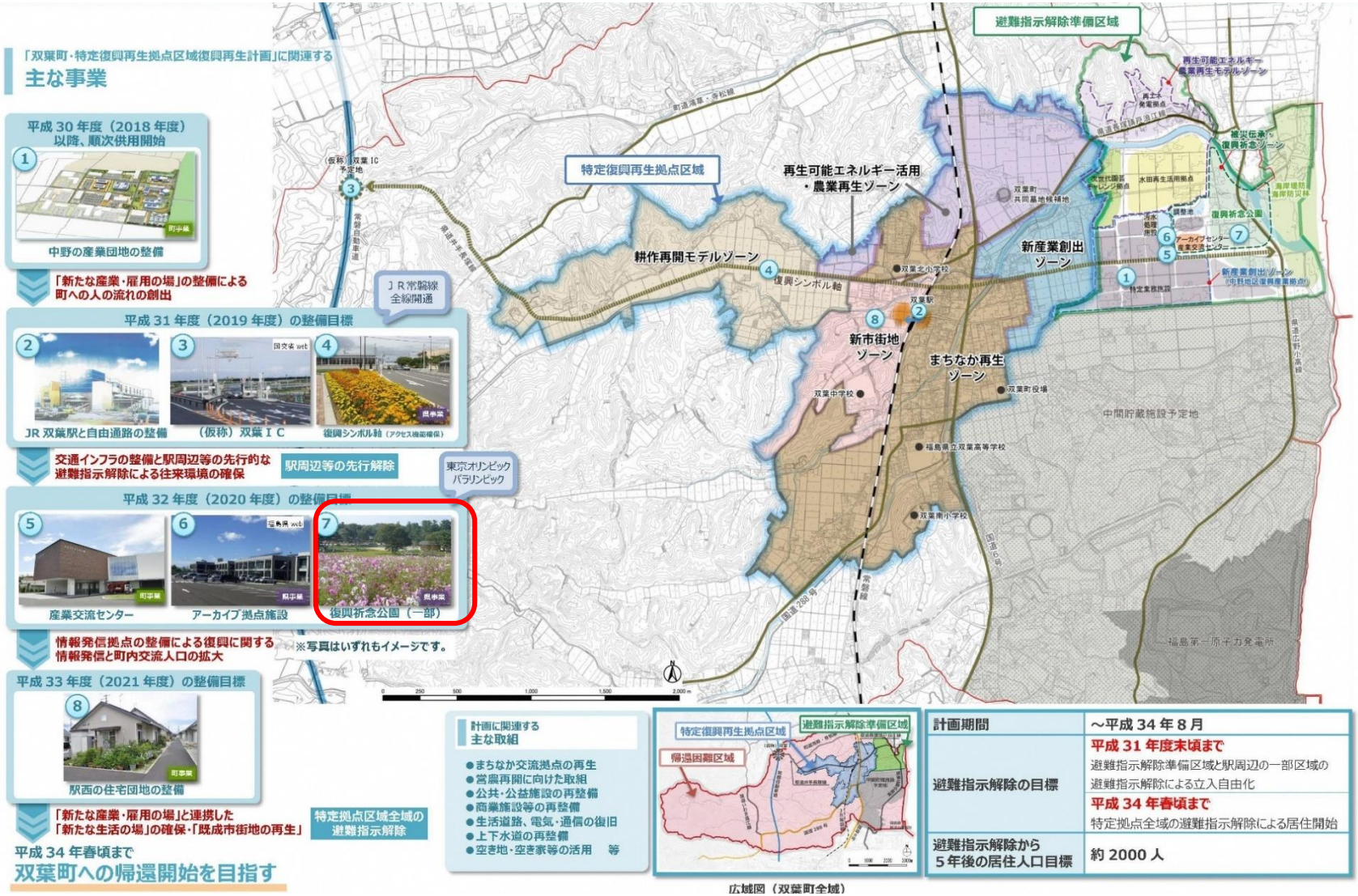
福島県内に避難されている方	4,077人(約59%)
福島県外に避難されている方	2,825人(約41%)



2. 双葉町・特定復興再生拠点区域復興再生計画の概要

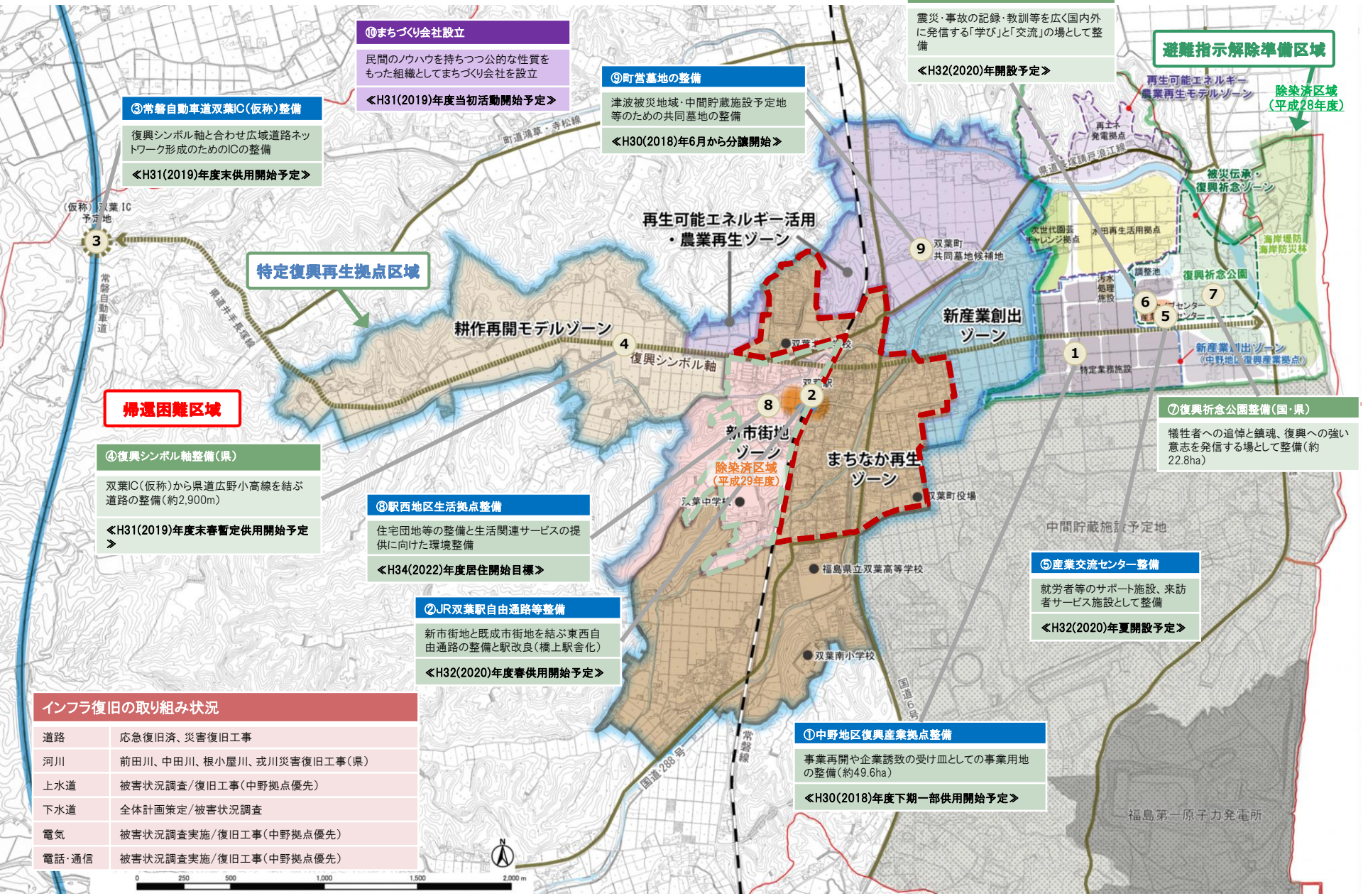
○ 将来的な町内全域の居住環境整備に向けた第一歩として、震災前の双葉町の姿やこれまでの復興まちづくり計画を踏まえて区域を設定。

○ 魅力ある住環境と確固たる産業基盤を兼ね備えた町の再興を図るため、避難指示解除準備区域に、「新たな産業・雇用の場」となる復興産業拠点の整備を行い、町への人の流れを創出するとともに、JR双葉駅を中心とする町内の低線量区域に「新たな生活の場」の確保と「既成市街地の再生」を推進。



計画期間	～平成 34 年 8 月
避難指示解除の目標	平成 31 年度末頃まで 避難指示解除準備区域と駅周辺の一部区域の避難指示解除による立入自由化 平成 34 年春頃まで 特定拠点全域の避難指示解除による居住開始
避難指示解除から５年後の居住人口目標	約 2000 人

3. 双葉町内の復興まちづくりに関する取組状況



⑥アーカイブ拠点施設整備（県）

震災・事故の記録・教訓等を広く国内外に発信する「学び」と「交流」の場として整備

≪H32(2020)年開設予定≫

⑩まちづくり会社設立

民間のノウハウを持ちつつ公的な性質をもった組織としてまちづくり会社を設立

≪H31(2019)年度当初活動開始予定≫

⑨町営墓地の整備

津波被災地域・中間貯蔵施設予定地等のための共同墓地の整備

≪H30(2018)年6月から分譲開始≫

③常磐自動車道双葉IC（仮称）整備

復興シンボル軸と合わせ広域道路ネットワーク形成のためのICの整備

≪H31(2019)年度末供用開始予定≫

⑦復興祈念公園整備（国・県）

犠牲者への追悼と鎮魂、復興への強い意志を発信する場として整備（約22.8ha）

④復興シンボル軸整備（県）

双葉IC（仮称）から県道広野小高線を結ぶ道路の整備（約2,900m）

≪H31(2019)年度末暫定供用開始予定≫

⑧駅西地区生活拠点整備

住宅団地等の整備と生活関連サービスの提供に向けた環境整備

≪H34(2022)年度居住開始目標≫

⑤産業交流センター整備

就労者等のサポート施設、来訪者サービス施設として整備

≪H32(2020)年夏開設予定≫

②JR双葉駅自由通路等整備

新市街地と既成市街地を結ぶ東西自由通路の整備と駅改良（橋上駅舎化）

≪H32(2020)年度春供用開始予定≫

①中野地区復興産業拠点整備

事業再開や企業誘致の受け皿としての事業用地の整備（約49.6ha）

≪H30(2018)年度下期一部供用開始予定≫

インフラ復旧の取り組み状況

道路	応急復旧済、災害復旧工事
河川	前田川、中田川、根小屋川、戎川災害復旧工事（県）
上水道	被害状況調査/復旧工事（中野拠点優先）
下水道	全体計画策定/被害状況調査
電気	被害状況調査実施/復旧工事（中野拠点優先）
電話・通信	被害状況調査実施/復旧工事（中野拠点優先）

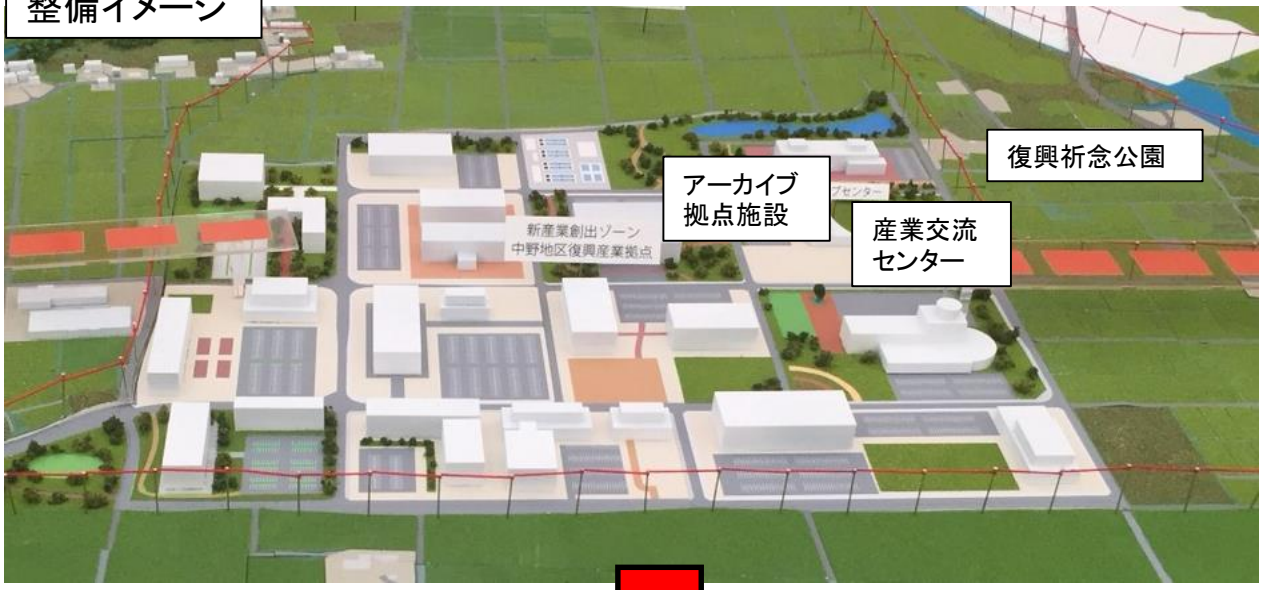
4. 中野地区復興産業拠点の整備

○ 避難指示解除準備区域に、「新たな産業・雇用の場」を確保し、町への人の流れを創出するべく、「中野地区復興産業拠点」の整備を推進中。

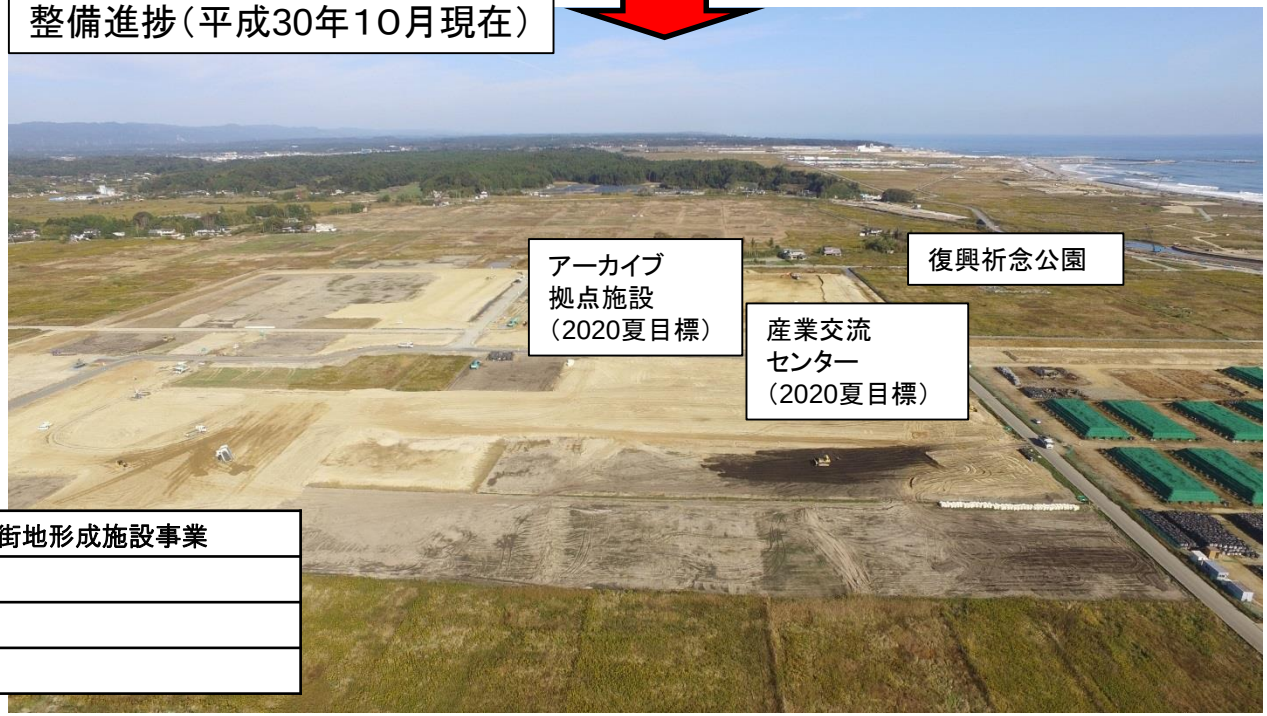
○ 本年冬より順次供用を開始するべく、現在造成工事を進めているとともに、本年8月以降、順次企業立地協定を締結。

○ 中野地区復興産業拠点の中心部には、県アーカイブ拠点施設の整備が進められているほか、復興祈念公園予定地が隣接する。町では、地区の就業者サポート、復興祈念公園・アーカイブ拠点施設等の来訪者サポート及び町民サポート並びに防災拠点機能の確保を目的とした「産業交流センター」を整備する予定。

整備イメージ



整備進捗（平成30年10月現在）



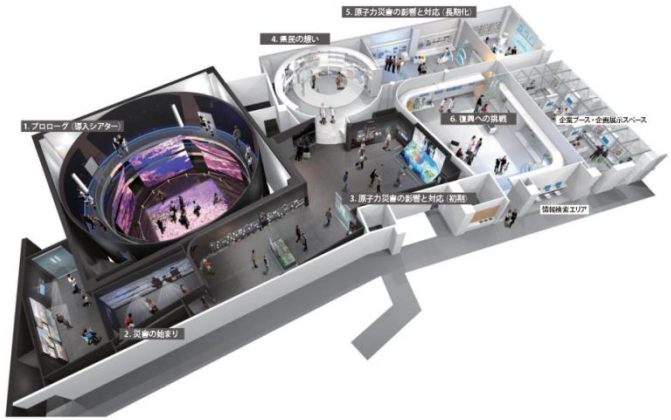
事業名称	中野地区一団地の復興再生拠点市街地形成施設事業
事業主体	双葉町 （受託者:UR都市機構）
事業面積	約49．6ha
事業期間	平成29年度～平成32年度

整備イメージ－（福島県公表資料より）

■建築計画概要

施設名称	東日本大震災・原子力災害アーカイブ拠点施設
建設地	双葉郡双葉町中野地内（下図参照）
主要用途	展示施設
施設諸室	展示エリア、サービス・収蔵エリア、管理・研究エリア、研修・会議エリア、共用エリア等
構造	鉄筋コンクリート構造（一部鉄骨造）
階数	地上2階
敷地面積	約35,000㎡
延床面積	約5,200㎡　（1F:約2,700㎡、2F:約2,500㎡）
駐車台数	大型バス:10台程度、普通車:100台程度
その他	太陽光発電設備　等

■展示全体イメージ

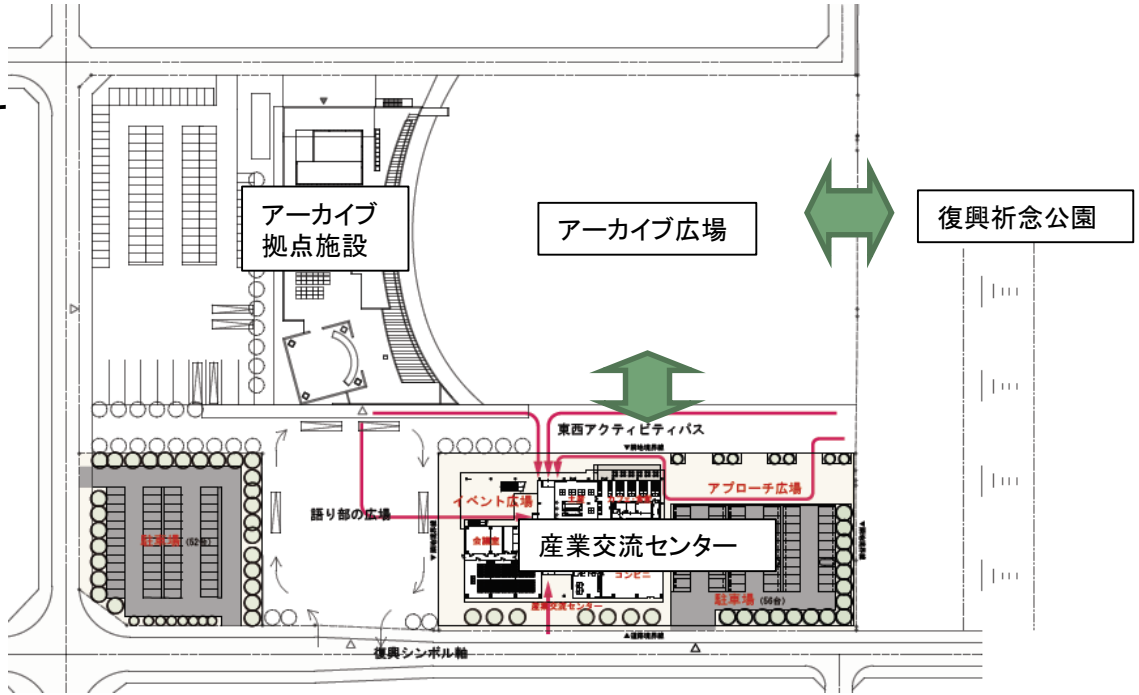


6. 産業交流センターの整備

○　2020年夏を目標に、中野地区復興産業拠点の中心部に、地区の就業者サポート、復興祈念公園・アーカイブ拠点施設等の来訪者サポート及び町民サポート並びに防災拠点機能の確保を目的とした「産業交流センター」を整備。

○　地区の核となる施設として、小売店舗・飲食機能を備える。

○　同じく2020年夏を整備目標とするアーカイブ拠点施設と同一の敷地に立地。アーカイブ拠点施設前の「アーカイブ広場」は、道路を介さずに直接復興祈念公園に隣接することとなっており、3施設の連携が重要。



福島県復興祈念公園　基本計画（平成30年7月）抜粋

当公園は、2020年度（平成32年）に、公園の一部利用を開始し、その後、順次、利用を開始していく予定である。

○　2020年夏には、東京オリンピック・パラリンピックが開催され、福島の復興に係る現状を世界に発信する絶好の機会。

○　アーカイブ拠点施設等との連携が重要である観点も踏まえ、「一部利用」の開始について、内容の具体化・高度化を図るべき。